

令和2年度 自己評価表

教育方針	「輝く瞳の君であれ」 一人一人の自己実現を目指して	重点目標	「夢・挑戦・感動」 一夢を持ち、挑戦し、そして感動する生徒の育成一
------	------------------------------	------	--------------------------------------

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
学 校 運 営	中高一貫教育の推進	校長が、目指す教育理念や運営方針を職員、保護者や地域に明確に説明し、周知を図る。 ○小学生体験入学参加者数 150人以上 A:150人以上 B:149~130人 C:129~110人 D:109~100人 E:100人未満	C	学校説明会、体験入学会及びホームページの活用によって教育理念や学校運営方針を周知することができた。 ○小学生体験入学参加者数 122人	学校説明会の実施方法について更に検討し、中等教育学校の良さをアピールする。
		1・2年、3・4年、5・6年各ステージの効果的な運営について研究する。 ○前期職員会議の実施 年3回 ○教育課程委員会の実施 年3回	B	○各ステージの教育内容、指導方法、及びその連携の在り方についての研究がなされた。	前期職員会議での各教科間の情報交換を活性化させる。
	学校経営に対する理解と評価	保護者と連携し、魅力ある学校づくりを目指して行事の工夫・改善を行う。 ○保護者の交流行事 年5回以上	D	計画はしていたが、実施できない交流行事が多く、十分な活動を行うことができなかった。 ○主な交流行事 (PTA総会(資料配付にて承認)、給食試食会、修了式(実施予定)など)	昨年度、実施できなかった交流行事を企画するとともに、実施不可の場合の代替案についても検討する。
	組織の連携強化	○学年会の実施 月1回 ○教会会の実施 月1回	A	○各学年、教科での情報交換が円滑に行われ、有機的に機能した。	各校務分掌間における情報交換を活性化させる。
	危機管理の充実・強化	非常変災や事件・事故などに対処できるよう役割分担を明確にし、準備・訓練等を充実させる。 地域の防災活動との連携を図る。 ○実践的な防災避難訓練等の実施年2回。緊急地震速報システムを利用した訓練1回、予告無し訓練1回。	A	「学校防災教育実践モデル地域研究事業」の指定を受け、計画どおりの訓練の実施や、地域との連携を果たし、地震発生時の対応の検証や生徒の意識高揚につなげることができた。	緊急地震速報システムを有効活用し、引き続き訓練や対応マニュアルの改善を図っていく。
	教育環境の整備	あいさつや清掃活動が活発に行われるように指導するとともに、校内巡視を徹底する。 ○清掃活動巡視 毎日 ○校内巡視 毎日	D	清掃時の巡視活動の徹底ができていなかった。	巡視の係を確定し、徹底して実施していく。
校内各所の危険箇所の改修を速やかに行い、生徒が安全で快適な学校生活を送れるよう環境整備に努める。		B	施設設備の老朽化が進んでいるなか、迅速に修繕・改修を行い、安全で快適な環境整備に努めた。	修繕必要箇所を早期発見し、修繕・改修に努める。	
職場環境の整備	悩みを気軽に相談しあえる職場環境・人間関係づくりに努める。 教職員レクリエーションや、健康講座を企画し、心身のリフレッシュとより良い人間関係作りを努める。 ○教職員レクリエーション 年1回以上	D	新型コロナウイルス感染症の影響で、教職員レクリエーションが実施できないなど、教職員間の交流や心身のリフレッシュの機会が失われ、それが目標とする明るい職場環境にも影響したと考えられる。	引き続き、教職員の心身のリフレッシュとより良い人間関係の構築のための取組を考え、実施していく。	

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
学校運営	学校運営に対する理解と評価	授業公開日や様々な「通信」及びホームページ等を通じて、保護者や地域に学校の状況を適切に伝える。 ○授業(行事)公開日 年間8回 ○授業公開日の参観保護者数 全保護者の50%以上 A:50%以上 B:49~40% C:39~30% D:29~20% E:20%未満 ○ホームページの更新 原則 毎日	C	○行事公開日 3回+授業公開日 2回 年間 5回実施 ○10月参観保護者(1年生授業公開) 55.7% 1月参観保護者(2年生少年の日) 76.1% 授業公開(平均) 66.7% ○年間を通じて担当を決め、開校日においてはほぼ毎日更新した。	「南校通信」にて、月行事予定を発信するとともに、授業(行事)公開についても早めに案内を行う。 原則ホームページを毎日更新することを目標とする。行事予定などをできるだけ早く情報発信できるように努める。
		生徒・保護者及び地域の願いや職員の意見を反映させ、共通理解のもとに組織的な運営を図る。	B	授業公開時にアンケートを実施し、保護者の意見・要望について教職員間で情報共有を行い、次年度への改善策を検討した。	保護者アンケートの実施結果をもとに、学校運営に反映させていく。
学習指導	教科指導の充実	出席する、継続することの大切さを理解させる。 ○1か年皆勤率 60%以上 A:60%以上 B:59~55% C:54~50% D:49~45% E:45%未満 ○3か年皆勤率 35%以上 A:35%以上 B:34~30% C:29~25% D:24~20% E:20%未満	B	○1か年皆勤率 64.4% (3/1現在) ○3か年皆勤率 31.0%(前期)、38.7%(後期)(3/1現在)	登校し、授業に出席することの大切さを生徒に引き続き理解させる。 生徒に対して、体調管理に努めようとする意識の醸成を図る。
		分かる授業を展開し、基礎・基本を定着させ、学力の向上に努める。	B	各教科において教材の精選・工夫や、共通の指導目標のもと学力向上に向けての努力が見られた。	小テストや課題の充実により、基礎・基本の定着、応用力の更なる伸長を目指す。 授業改善に努め、生徒の思考力・判断力・表現力の育成に努める。
	家庭学習の充実	適切な課題を与えるとともに、漢字検定・英語検定などの資格取得を通じて、目標に向かって自主的に学習する姿勢を育成する。 ○家庭学習時間 1・2年生 120分以上 A:120分以上 B:119~110分 C:109~100分 D:99~90分 E:90分未満 3・4年生 160分以上 A:160分以上 B:159~150分 C:149~140分 D:139~130分 E:130分未満 5・6年生 200分以上 A:200分以上 B:199~190分 C:189~180分 D:179~170分 E:170分未満 双方向通信環境の強化による学習支援の充実	B	家庭学習時間調査によると、自宅の学習においては、2・3年生の学習時間が少なめで、目標には届いていないが、塾の時間も含めると、ある程度の学習時間は確保できている。 ○家庭学習時間 ()内は塾での学習時間を含んだ時間 1・2年生 119分(138分) 3・4年生 142分(160分) 5・6年生 222分(254分) 双方向通信環境の強化については、Edmodoを利用して通信ができる準備を整えた。今年度も課題の連絡などには利用している。	学習については、効果的な学習について、各自で考えることが必要である。自学の習慣を身に付けるための方策が必要である。 双方向通信環境については、現在、後期の担任を中心に取り組んでいるが、各教科でも取組を進めるよう努める。
生徒指導	生活指導の充実	指導方針を明確にし、全教職員が指導にあたる組織づくりに努める。	B	指導方針に基づき、教職員が連携した指導ができている。	年度初めの生徒指導職員会をはじめ、学年会や職員会及び職員朝礼などで、教職員間の情報交換をスムーズに行うよう常に周知徹底を図り、今後も連携した指導を行うことができるように努める。
		規範意識の定着を図り、綿密な情報交換に基づいて生徒理解に努める。 ○社会の規範をよく守る生徒 100% A:90%以上 B:89~70% C:69~50% D:49~40% E:40%未満	B	教職員間の情報交換に基づき、指導ができた。しかし、問題行動は発生した。 ○問題行動件数 前期3件 後期1件	即時指導を実施し、生徒の規範意識を高める。 学級、クラス、部活動内での人間関係の構築に努める。各集団において生徒とコミュニケーションを十分とることによって、生徒の状況を把握して早期問題発見に努める。

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
生徒指導	生活指導の充実	家庭・地域及び関係機関等、外部と連携して指導する。	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために最小限の活動の対応となった。	相談については丁寧な対応を心掛け、さらなる改善に努める。相談によっては専門の機関等を紹介するなど、よりよい方向に進めるような方法を提示できるように努める。
		保護者懇談会や家庭訪問等を実施し、保護者の相談に適切に応じる。	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のために、家庭訪問も最小限にとどめる対応を取ったため、不十分な場面もあった。	
	生徒会活動の充実	生徒会各種委員会の活動を通して自主・自律的精神を養い、宇和島南中等教育学校の生徒としての自覚や連帯感を育てる。	B	新型コロナウイルス感染症のため、活動が思うようにできない場面もあったが、それぞれの委員会が工夫をし必要事項を全校に発信した。	生徒会、各種委員会のさらなる活性化に努める。
	部活動の充実	達成感が得られるように部活動の活性化及び能力向上につながる指導方法の工夫を図る。	C	新型コロナウイルス感染症のため、県総体など様々な大会等が中止となったが、活動制限の中で各部が感染対策を講じ最大限の活動を行うことができた。	今後も感染対策を徹底しながら、部活動の意義を考えさせ効果的な指導を考える。
進路指導	進学・就職指導の充実	進学・就職に関する研究を深め、生徒の希望と実態に即した適切な指導を行う。	B	新型コロナウイルス感染症対策など、頻繁に変化する情報を早めに伝えることはできた。	学年集会など、様々な方法で情報を伝達する。
		生徒理解のために、学力推移調査や模擬試験などの成績資料を整備し、その活用を図る。 ○大学入学共通テスト受験率 80%以上 A:80%以上 B:79~70% C:69~60% D:59~50% E:50%未満 ○国公立大学合格者 70人以上 A:70人以上 B:69~60人 C:59~50人 D:49~40人 E:40人未満 ○難関国公立大学と医学部医学科合格者 13人以上 A:13人以上 B:12~9人 C:8~5人 D:4~1人 E:0人 ○難関私立大学の合格者 30人以上 A:30人以上 B:29~25人 C:24~20人 D:19~15人 E:15人未満	C	○大学入学共通テスト受験率 78% (R1年度75.7%) ○国公立大学合格者 55人 (3/10現在) ○難関国公立大学と医学部医学科合格者 3人 ○難関私立大学合格者 29人 (3/10現在)	特別入試の枠が広がりつつあり、難しい面もあるが、後期生の早い段階から、最後まで受験をあきらめない指導を続けていくように努める。
		興味や適性に応じて進路選択ができるよう、適切な情報を提供し、生徒や保護者対象の適切なガイダンスを行う。 ○保護者対象進路説明会 年間1回以上 ○生徒対象進路説明会 各学年2回以上	C	今年度は新型コロナウイルス感染症のため、予定していた説明会は実施することができなかつた。	動画を利用した説明会なども用意されているので、どの方法がより適切かを考えながら計画を立てていく。
		面接、懇談会等を実施し、生徒・保護者・学校の連携や意識統一を図る。 ○面接回数 5回以上 ○保護者懇談会 2回以上	B	面接や懇談会は、各学年や担任の努力のもと実施することができており、成果を上げた。	ポートフォリオの効果的使用法について、今後さらに研究する。
特別支援教育	特別支援教育の充実	生徒の困難さに目を向け、ニーズに合わせた指導や、将来に向けての目標到達を目指した支援ができるように、特別支援教育の体制整備に努める。	C	担任と連携して、支援の必要な生徒に対して、個別の指導計画を作成した。関係する教員が生徒の特性を把握することで、適切な指導につなげた。生徒と定期的に面談を行うことで、生徒自身が目標や課題を自覚することができた。	生徒の実態や状況に目を配り、必要な支援ができるように、学年団、担任との連携を続ける。

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
人権・同和教育	人権意識の高揚	差別や偏見のない社会を目指す生き方について共に学ぶ。 ○「人権だより」の発行 月1回	B	「人権だより」の発行と、委員会生徒による放送が実施できた。原稿を執筆した教員自身に読んでもらうことができた。今年度より、ホームページにも掲載した。	保護者からのコメントを年度途中から掲載したが、来年度は早い時期から実施するよう努める。ホームページ掲載を含め、保護者への発信に力を入れる。
		いじめ・体罰・セクシュアルハラスメント等に対する意識を高め、気軽に相談できる体制をつくる。 校外外での研修を充実させ、全教職員が共通の意識をもっていじめ防止・発見対応に努める。 ○学校生活をよりよくするためのアンケートの実施年2回	B	校外研修は回数が激減したが、多くの教員が参加に協力的だった。外部講師を招いての講演は、好評であった。 学校生活をよりよくするアンケートは、結果に対して学年団を中心に速やかに対応した。分析資料は工夫して作成し、有効に活用してもらうことができた。	校内研修の内容を工夫し、学級活動やホームルーム活動の実践に役立ててもらえるようにする。 校外研修への参加を増やし、その内容を他の教職員と共有できるような場を設ける。 学校生活をよりよくするアンケートについては、年度をまたいだ結果比較、分析などを充実させる。
		道徳・学級活動・ホームルーム活動を活用し、生徒の成長に応じた指導を行い、差別の解消に向けた実践力を養う。 地域と連携した活動に積極的に参加する。	C	学級活動、ホームルーム活動は、毎回担任を中心に、各クラスで熱心に取り組むことができた。 子ども食堂でのボランティアを複数回実施できたが、保護者アンケートの結果にあるように、回数や実施時期について改善の余地がある。	さらに生徒が中心となった活動となるよう、資料等の提供に努める。 校外でのボランティア活動の回数を増やしたり、より多くの生徒が参加できたりするよう検討する。ホームページでの発信回数も増やす。
現職教育	教職員の資質向上	学校の現状改善や将来に目を向けた適切なテーマで研修を行い、職員の資質向上を図る。 ○南校ティーチャーズウィーク(相互授業参観)を実施 年2回以上	C	ICT活用を中心に、職員研修を実施した。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で研修会等がほぼ中止になったため、校外研修の機会がほとんどなかった。 ○南校ティーチャーズウィーク(相互授業参観)を6月と11月に実施した。	オンライン教育の実施を目指し、ICT活用の研修において実践につながるよう内容の充実に努める。 引き続き、各教科、各学年を超えて相互授業参観ができる機会を作るように努める。
健康・安全指導	心身の健康増進	健康観察、健康相談の充実を図り、健康増進に努める。 定期健康診断の事後措置を徹底し、疾病の受診率向上を目指す。(う歯、視力等) ○「保健だより」の発行・ホームページへの掲載 月1回 <u>感染症対策の充実を図る。</u>	A	例年以上に取り組んだ。更に新型コロナウイルス感染症の対策やその啓発活動も頻繁に行った。新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた時期に健康診断等が実施できなかった。	様々な場面において、十分に感染症対策に取り組むことができるよう努める。
		各行事、教科等を通じて、食育について周知・啓発を図るとともに、家庭との連携・協力を努める。 「水産の日」「地産地消の日」を設け、地場産業の啓発に努める。 ○食育の日 水産の日 地産地消の日 月1回	C	プリント配付や校内放送を通じて啓発活動に取り組んだ。	引き続き、食育について、様々な方法で周知、啓発ができるように努める。
		相談員等と教職員との連携を図り、生徒の変化に速やかに対応できる体制の強化に努め、生徒の相談しやすい環境を整える。	B	スクールカウンセラー、相談員など、本校の相談体制の周知に努めた。生徒、保護者、教員からの相談依頼も増加している。	今後も相談体制の周知に努め、相談依頼には迅速に対応する。
	安全指導・点検の強化	交通ルールの遵守に努め、交通事故を防ぐ。特に、自転車による登下校時のマナーアップ向上に努める。	B	委員会活動、交通指導等から交通マナーアップを呼び掛けた。自転車の登下校について効果が薄い生徒がいた。	委員会活動、講習会、交通指導等から交通マナーアップを図る。また、巡視等も実施する。
校内巡視を徹底し、危険箇所等のチェックを行い、迅速な対応を図る。		B	安全点検を実施し、危険箇所の把握に努め、速やかに修理を行った。	校内巡視を積極的に行い、危険箇所を早期発見し、速やかに対応する。	

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
図書・視聴覚・情報教育	読書指導の充実	全校で朝読書を行うなど生徒が本に親しみを感じ、読書習慣を身に付けられるように指導する。 ○書籍年間貸出冊数 一人年間6冊以上 A:6冊以上 B:5~4冊 C:3~2冊 D:1冊 E:0冊 ○読書冊数 一人年間16冊以上 A:16冊以上 B:15~14冊 C:13~10冊 D:9~6冊 E:6冊未満	A	図書委員が朝読書の様子を記録し、月1回の委員会で各クラスの状況を確認した。クラスによっては読書に集中できていないところもあったが、年間を通して、朝読書の時間は確保できた。 ○書籍年間貸出冊数 一人7冊(前期10.6冊/後期3.9冊)(R3.1月末調査) ○読書冊数 一人17.1冊(前期22.9冊/後期12.1冊)(R3.1月末調査)	学年、図書委員を中心に、朝、スムーズに読書の時間に切り替えられるよう、呼びかけをする。 授業においても図書館利用を増やし、読書案内のきっかけにしよう働きかける。
		生徒にとって必要な図書を選定し、利用しやすい図書館運営や環境づくりに努める。 <u>図書館についてより充実した情報発信に努める。</u> ○「図書館通信みなみ」月1回発行 「図書時報」年1回発行	B	図書委員や後期生を中心に読書案内を作成し、掲示案内するなど情報発信に努めることができた。また、年1回の校内読書会を開いて、ビブリオバトルを行い、新しい本との出会いを広げることができた。 ○「図書館通信みなみ」月1回発行 ○「図書時報」年1回(3月発行予定)	できるだけ開館日を設け、開館時間を確保できるようにする。 図書館からの情報発信に努め、掲示案内を工夫し、さらに利用してもらえるよう環境を整える。
	視聴覚機器を整備し、効率的な活用ができるようにする。 <u>I C T機器を用いた学習支援システムを充実させる。</u>	B	授業や会議、研修において、プロジェクターや電子黒板等の視聴覚機器の積極的な利用が増えた。また、Edmodoの利用により非常時の生徒への支援環境を作ることができた。	より効率よく利用してもらうため、利用簿への入力を促進し、視聴覚機器の管理を徹底する。	
	情報処理教育及び情報管理	コンピュータ活用能力を高めるとともに、適切な利用について指導する。 ○校内研修会における自主的な教職員の参加率30% A:30%以上 B:29~25% C:24~20% D:19~10% E:10%未満	C	多くの教職員が校務系環境を利用し、適切な校務処理を行えるようになった。また、オンライン授業に対応するべく外部指導者による研修も実施し、情報活用能力は確実に向上している。 ○オンライン授業に対応するための研修が新たに実施されたため、自主的に参加する研修は実施できなかった。	電子黒板や学習系Wi-Fi環境の効果的な利用方法を研究し、校内研修を実施する。また、生徒一人1台の端末が用意されるため、すべての教員が生徒への指導ができるよう校内研修を実施する。
	情報セキュリティ意識の高揚に努め、管理体制を明確にして個人情報等の管理を厳密に行う。	B	校務系を活用して重要ファイルを管理することで、情報漏洩の防止に努めた。	重要ファイルの分類等を行い、より一層のセキュリティ維持に努める。	
学校評価	学校改善の取組	組織的・継続的な改善を進める。特に、行事や会議の縮減・簡素化を行うとともに、全教職員一人一人が、仕事の進め方に対する意識を改革し、超過勤務の削減に努める。 信頼される開かれた学校づくりを進める。 教職員個々が目標を掲げて自己評価を行うことを通して、自己研さんに励むとともに、学校への帰属意識を高める。 倫理意識の高い職場作りを推進するとともに、明るく意欲的に仕事ができる職場環境を整える。	C	教職員一人一人の役割と教職員間の連携・協力体制の明確化を進め、連絡業務の効率化や会議の縮減・簡素化を実施して超過勤務の削減に努めた。職員朝礼の時間短縮には成果があった。 学校HP及びメール連絡網「マチコミ」等によって保護者等への速やかな情報提供を実施するとともに、保護者等からの相談や連絡への適切な対応に努めた。 目標管理制度を活用して、教職員一人一人が学校教育目標を踏まえた自己目標を設定し、自己研さん及び自己評価を行った。 教育公務員としての意識を高め、交通違反の根絶に向けた取組や不祥事防止のための研修を行うとともに、連携強化や情報共有を促進することで、風通しのよい職場づくりに努めた。	教職員のやりがいや意欲を高めるとともに、「学校における働き方改革」の方策の一環として長時間勤務の削減など業務の円滑化やワークライフバランスの向上に努める。 保護者や地域等への情報提供や本校の魅力を発信するための効果的な校内体制及び方策の改善・充実に努める。 教育公務員としての倫理意識を高める研修等を実施するとともに、研修や出張の報告をはじめ、教職員一人一人が自分の考えや感想を表明できる機会の創出に努める。
		講演会や校外研修の実施で、学校生活における充実感や意識向上に努める。	C	新型コロナ感染症拡大の状況下においても、オンラインビデオミーティングを活用することで、講演会や大学教授からの課題研究指導の開催、また各種コンテストへの出場など、工夫して生徒に学びの機会を与えることができた。全員への教授は達成できなかったが、後期生に機器の操作法を教え実践に結び付けることができた。	引き続き講演会や校外研修を企画、運営し、どのような状況であっても、生徒の学びを確保するよう努める。 I C T機器操作を、全員の生徒に教授し、周知させるよう努める。

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)